

二一世紀はモノの見方が変わる。実際に変わりつつある。そして経済学も根本的に変わり始めている。二〇世紀の経済学にはさまざまな潮流があったが、これから経済学を学ぼうと思っている人たちは、そうし

た既成の理論にとらわれず、柔軟で新しい発想をしてほしい。また、日常的に見えるものとは異なった真理を探究する経済学には情熱も必要だ。

大学のころ僕が興味を持ったのは、技術革新と労働生産性の関係だった。企業は技術の進歩で革新を進める。資本主義も産業革命以降、技術進歩とともに

に発展を遂げてきた。僕はそう

ではなかった。

したダイナミックな社会の動きに興味を持ち、それを歴史的に大きく捉えてみたいと思った。技術革新は資本主義の動態型だと思っていたから、技術革新のない社会主義はこのままではダメになると思っていた。だから、九〇年のソ連崩壊も僕にとってそれほど驚くこと

貨幣について考えたのは、このあとだ。二〇世紀は資本主義と社会主義という二つの二大経済体制が存在し、一方で九〇年代初め、社会主義は崩壊した。すると、これから世界で市場経済が基盤になると誰もが考えるだろう。だが実際にはそのあと、アジア

グローバル化に逆行する

地域通貨は

二世紀に大きな可能性を持つ

通貨危機が起こり、日本では金融危機が起きた。つまり、これまで流通手段としてしか考えられなかった貨幣が、市場において大きな問題を抱えていたのである。この貨幣に絞って経済制度を見直す必要があるのではないだろうか、と思ったことが、地域交換取引制度（LETS: Local Exchange Trading System）について考えるきっかけになった。

地域通貨LETSの

LETSとは、その名の通り地域で使われる“貨幣”である。すでに世界の二〇〇〇地域ほどが導入していると言われており、日本でも北海道・下川町では「フォーレ」、滋賀・草津市では「オウミ」などの名前で取り入れられている。

滋賀・草津市では「コミュニティセンターの利用後の掃除が義務付けられていたが、面倒だということで利用者がほとんどいなかった。しかし、ボランティアが掃除をしてくれれば

にしべ まいご
北海道大学経済学部助教授

西部忠

肖像



は使いたいという人が多かった。そこで、ボランティアをしてくれた人には地域通貨「オウミ」を渡すことにした。オウミを受け取った人は、それを農家に持っていく、大根と交換する。大根を売った人は、今度はオウミを保育園のボランティアに払う。こうして、町全体にオウミが流通し、貨幣がない市場が成り立つのである。

このLETSから考えられる興味深いことは、貨幣とはメディアで、つまりメッセージを持ち、経済価値を伝達しているということ。例えばエコロジーに賛同した人々がつくるLETSは、環境に対するメッセージを持つ。今後は、コンピュータなどのネットワークを使うことによって物理的空間を超えた意味的な空間でも利用が可能だろう。非市場的な財やサービスもLETSで取引できる可能性は大いにある。

自分なりの
ビジョンを持って

従来の経済学は物理学の概

一九六二年福井県生まれ。東京大学経済学部卒業、八九年カナダ・ヨーク大学大学院経済学研究科修士課程修了、九三年東京大学大学院経済学研究科第二種博士課程修了、経済学博士。主著は『市場像の系譜学』など。「インターネット」でもLEET.Sのような現象が起きている。それがLinuxだという。基本ソフト(OS)であるLinuxは仕様が完全に公開され、世界中の開発者らが情報交換をしなが改良を続けている。「LEET.S」と共通するのは、自由を前提としていること。それから共同性、共有化、情報公開性。取引経緯や残高などを情報公開しているLEET.Sもある。単なるブームには終わらせたくないと思っている。

念を取り入れた経済物理学だった。しかし、これからの経済学は経済を生物と捉える経済生物学、進化経済学の方向に進むと考えている。経済学にも数学的能力や論理力だけでなく、直観的なモデルやコンピュータ・シミュレーションを創造するための抽象力や構想力、アナロジーやメタファーを駆使する能力、そしてなにより現実を判断し将来を見通すための価値や論理が重要となる。

偉大な経済学者たちの理論は、精密でなくとも骨太でその時代を色濃く反映しており、現在も超え未来をも牽引する力を持ってきた。すぐには目に見えなくても、本物の思想は具体化してくる。常にどんな理論にもフレッシュな気持ちで取り組み、自分なりのビジョンを持ってみる。経済学には積極的な現実への語りかけが大切なのである。